

2021年（令和3年） 6月4日 金曜日

大和合金

実機向けで初受注

ITERに銅合金提供

特殊銅合金メーカーの大和合金（本社：東京都板橋区、萩野源次郎社長）は、核融合実験の国際プロジェクト「ITER（イーター）」で使う銅合金材料を実機向けで初めて受注した。

欧州の研究機関からの案件で、受注額は数千万円程度。受注対象は第一炉壁の材料に使う銅クロムシリウム合金の板材で、8月頃から来年初めにかけて納入する。価格、製品の品質レベルの高さのほか、対応の早さと正確さなどが評価された。今後はダイバータ用冷却管として使われる銅クロムシリウム合金管の受注も目指す。

受注した板材は炉の内壁である遮蔽ブランケットモジュールから熱を取り除くために使

用。材料の銅クロムシリウム合金は強度と耐熱性に優れ、高い熱伝導率や導電性

を持つ。遮蔽ブランケットモジュールは真空容器と外部機器を放射線と熱から遮蔽する装

置で、特殊銅合金の全必要量は460トンになる。大和合金は欧州の研

究機関でITERの機器調達を担うフュージョン・フォー・エナジーから受注。同機関が調達を担当する銅合金は全必要量のうち48%を占める。

第一炉壁の入札は今後も3回にわたって行われる予定で、大和合金はその分の納入も目指す。

指す。さらに今年度から調達し始まるダイバータ用冷却管向けの銅合金管でも受注を広げる考えだ。ダイバータは環状型のプラズマ閉じ込め装置で発生するヘリウムを排出する機器。プラズマから流れ

出た熱や粒子を徐熱、排気してプラズマ性能を保つ。萩野社長は「今後当社が技術と材料を提供することで、安全安心な核融合プラント建設に貢献したい」と話す。